

質疑応答 (Q & A) ※会議での発言をとりまとめたもの

Q：忍沼川と忍川の合流部に設ける「逆流防止堰」はいつ頃造る予定なのか？

Q：忍川では堤防の嵩上げなどの対策が実施されたが、忍沼川の方では何も対策がされていない。また、忍川からの逆流水を防ぐ堰の設置も未定とのこと。万が一、先の台風のような災害に見舞われた場合、緑町や神明地区の皆さんにとって忍沼川の水が溢水する不安や懸念は、以前から何ら変わっていないのではないか？

A：【市】逆流防止堰の設置に関しては、忍川からの逆流を防ぐことには効果があると考えています。一方で、設置により忍沼川の水が忍川へ出づらくなるという側面も、なくはないと捉えています。そのため、まずは忍川の河道拡幅や調節池の整備によって「一帯にどの程度の雨が降ると、どういう水の流れになるか」をシミュレーションし、堰を設ける必要性の有無を判断していきたいと考えています。現在は、そのための新年度予算の確保に努めているところです。

Q：他市のホームページを見ると、必ず防災情報がトップ画面に出てくる。そこを辿っていけば河川情報などにも入っていけるのだが、行田市では自分で探さないと辿り着けない状態となっている。誰もが手軽に情報を得られるよう工夫してほしい。

A：【市】皆様にとって見やすいものが一番と考えています。担当部署と調整し、出来るところから改めてまいります。

Q：先進地である新潟県の田んぼダムは、具体的にはどの辺りで取り組まれているのか？

A：【市】本市の採用した「フリードレーン方式」による整備が最も進んでいたのが、見附市です。地形的にも本市と似ていて、非常に参考になりました。近くの小千谷市の方式も見学しましたが、前者の方式がより効果が高いと判断し、導入したところです。

Q：市街地では早くから合流式下水道が敷設されたため、時期的にも傷みが来ている頃だと思う。ライフラインを計画的に更新していく必要がある中で、併せて内水氾濫も防ぐ形に持っていければよい。

A：【市】下水道課において策定中の「ストックマネジメント計画」において、谷郷ポンプ場の更新工事を来年度から計画的に実施することとしています。今後とも、安全・安心の観点から施設の維持管理に努めてまいります。

Q：先日、福岡県や山口県、秋田県など各地で大雨による被害が頻発した。利根川と荒川に挟まれた行田市であのような大雨が降った場合、どうなるかといったシミュレーションは県として行っているのか？

A：【県】令和元年東日本台風を元に計画しており、その際のシミュレーションでは、仮に全く同じ規模の災害に見舞われたとした場合、浸水被害は5分の1になる計算となっています。また、忍川における対策だけでなく、行田市の実施する校庭貯留や田んぼダムなど流域治水の取組による効果も併せると、さらなる浸水被害の軽減が期待できるものと考えています。なお、直近の各地における大雨を元にしたシミュレーションは行っていません。



- 「忍川協議会だより」は不定期で関係自治会へ回覧します(次号の発行時期は未定です)。
- バックナンバーは行田市ホームページに掲載しています。
- ご意見やご質問は右記までお気軽にお寄せください。

ぎょうだ忍川浸水対策連絡協議会だより
第3号(令和5年8月30日発行)
編集:「忍川協議会だより」編集部
発行:行田市忍川浸水対策連絡協議会事務局
(埼玉県行田市地方庁舎2階:道路治水課内)
556-1111(内線5716・5732)

忍川浸水対策連絡協議会だより

～令和5年度行田市忍川浸水対策連絡協議会を開催しました～

7月20日(木)「VIVA ぎょうだ」にて会議(通算3回目)を開催し、^{こうだ}行田市長及び埼玉県行田県土整備事務所・酒井所長の出席のもと、県、市及び水資源機構の三者における直近の取組や、各事業の進捗状況についての相互確認及び情報共有を図りました。

梅雨末期の大雨による被害が全国各地で相次いだ直後だったこともあり、委員の皆様からは「忍沼川の内水氾濫」を懸念する声が多く寄せられ、近年の気候変動に伴い線状降水帯など新しい言葉が登場するなか、台風でなくとも大きな被害が多発する状況が決して「対岸の火事ではない」という危機感を、誰もが抱いている様子が強く感じられました。

それだけに、忍川の整備にとどまらず、校庭貯留や田んぼダムなども併せた「流域治水」の重要性が再認識されるとともに、これらの取組による相乗効果によって、浸水被害に対する市民の不安を一日も早く払拭することが行政の責務であると、三者が改めて胸に刻む機会となりました。

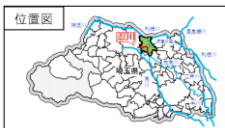


浸水対策事業の概要

浸水対策重点地域緊急事業【利根川水系忍川】(埼玉県・行田市)

浸水重点

埼玉県行田市の利根川水系忍川では、令和元年東日本台風により、床上浸水55戸、床下浸水194戸の甚大な浸水被害が発生。このため、浸水対策重点地域緊急事業により、調節池の整備、河道掘削、校庭貯留等を実施し、早期に地域の安全性の向上を図る。



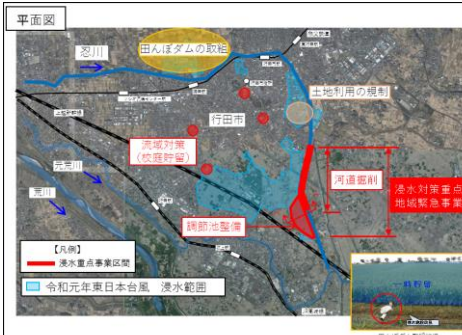
【全体計画】
河川名：一級河川利根川水系忍川
事業内容：調節池、河道掘削、橋梁架換、用地買収、校庭貯留等
全体事業費：約75億円
事業期間：R3～R5
施工地：行田市

【令和3年度当初】
事業内容：用地買収、測量設計等
事業費：506百万円(国費292百万円)

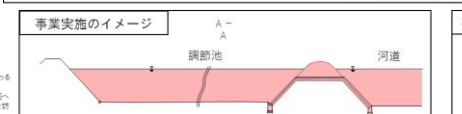
地区名	浸水戸数	
	床上 浸水(戸)	床下 浸水(戸)
合計	55	194

※令和元年東日本台風による浸水被害

※各施設は、中継実施する詳細な調査や検討等の結果により、変わる可能性もある。
※設計・安全交付金については、国の事業を示すものであり、計画後の進捗は地方の裁量に委ねられ、国の事業に異なる対応が求められるものではない。



- 〈県・市の独自事業〉
- 県単独事業
・県：樹木伐採・土砂掘削、堤防整備
 - 2/3上対策
・県：中高頻度の水害リスク情報図作成
・市：マイ・タイムライン作成
 - 適切な維持管理
・県：定期的な土砂撤去等
 - 流域対策
・市：田んぼダム、市街化調整区域の浸水リスクが高いエリアにおける開発許可の厳格化



※R3.3.30
国・県の
記者発表
資料

●協議会資料(抜粋※一部加工)

各主体による取組について会議資料の一部を掲載し次頁から紹介
します(資料の全編は、右のQRコードから御覧いただけます)。

協議会 Web

ページは

こちら



行田市の取組

①校庭貯留

○小学校4か所【忍、南、西、泉】において実施予定

※R4年度に忍小の工事を完了。R5年度は南小の工事及び西小の実施設計に着手中

行先	行容量(予定)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
忍小学校	967㎡	実施設計	工事				
南小学校	1,150㎡		実施設計	工事			
西小学校	970㎡			実施設計		工事	
泉小学校	1,280㎡			実施設計		工事	



施設構造

雨水貯留実施状況



校庭貯留

整備イメージ



②田んぼダム

○田んぼダム事業について

- 令和2年7月に市内17の多面的機能活動組織に田んぼダムへの取り組み依頼を行い、田んぼにある排水管を止水し雨水を貯留する方式で実施したところ、その運用過程において、大雨が予想される前に排水管を止水する操作が必要であり、協力者である農家の負担が大きいために課題として明らかになりました。
- こうしたことから、地元の負担軽減を図り治水効果を高めることを目的に、令和4年度、聖宮地区内の農地約6haに田んぼダム用水位調整管を設置しました。また、新潟大学農学部と連携し田んぼダムの治水効果解析を行い、治水効果があることが示されました。

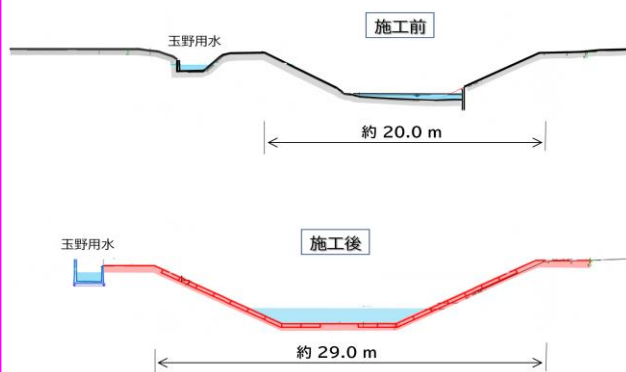
○田んぼダム詳細(イメージ図)



※管流入部及び管流出部の口径をそれぞれ15cm・5cmとし、流出を抑制。管を上下にスライドすることで、田んぼの水位をコントロールする仕組み(水位調整管は強化ビニル製)

【担当課・連絡先(TEL/メール)】
行田市環境経済部環境政策推進グループ
TEL048-556-1111内線373 メールnosei@city.gyoda.lg.jp

浸水対策重点地域緊急事業



樋の上橋



騎西鴻巣線



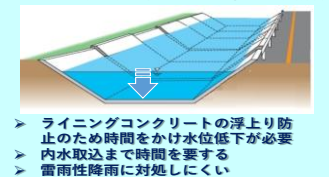
騎西鴻巣線



水資源機構の取組

内水排除の実施状況

○改築事業以前 (S46~H27)の内水排除

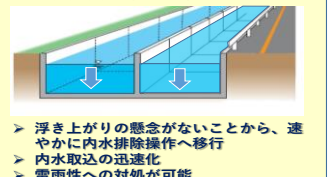


- ライニングコンクリートの浮上り防止のため時間をかけ水位低下が必要
- 内水取込まで時間を要する
- 雷雨性降雨に対処しにくい

内水排除要因【改築前】

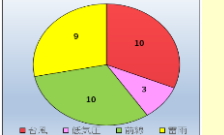


○改築事業後 (H28~)の内水排除



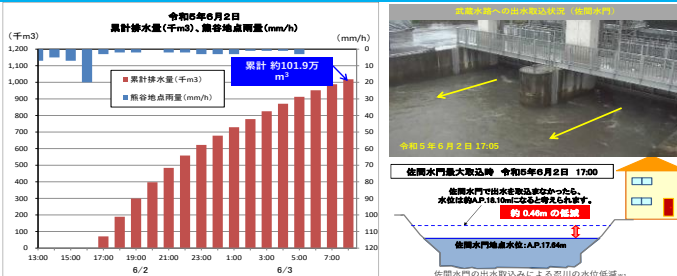
- 浮き上がりの懸念がないことから、速やかに内水排除操作へ移行
- 内水取込の迅速化
- 雷雨性への対処が可能

内水排除要因【改築後】



※近年増加している、局所的豪雨(ゲリラ豪雨)に対しても速やかに対応

令和5年6月2日台風2号の影響による降雨に伴う武蔵水路内水排除速報



- 8箇所の水門・放流口により出水を武蔵水路に取込み、累計約101.9万m³を荒川へ排水しました。これは、東京ドーム(124万m³)約0.8杯分の量に相当します。
- 佐間水門、川面水門で出水を取込んだことにより、忍川(佐間水門付近)で約0.46m、元荒川(川面水門付近)で約0.27mの水位低減を推定されます。

※1. 国土交通省河川部 020-4741 (国土庁本部) 1134 ※2 東京ドームHP https://www.tokyo-dome.co.jp/dome/facilities/index.html

行田市の取組 (つづき)

③マイ・タイムライン等及び情報伝達訓練

(1) マイ・タイムライン等の普及啓発

まちづくり出前講座を活用し、各地区や団体等の会合に危機管理課職員が出向き、災害発生時の対応や備えに関して普及・啓発活動を行っているとともに、要望に応じて「地震体験」なども行っています。

【主な内容】

- マイ・タイムラインの普及啓発
- 水害対策に特化したDVDの上映及び解説
- 市の地域特性を反映した講座の実施
- 起震車を用いた地震体験
- 防災クロスロードゲーム

【令和4年度の実績】

- 実施回数：19回
- 平均参加者数：33名

起震車による地震体験



(2) 情報伝達訓練の実施

本協議会の委員を対象として、情報伝達メールの発信により、台風の接近を想定した災害時のシミュレーションを実施しました(昨年度に続き2回目)。

【内容】

- 台風接近に伴う注意喚起
- 気象災害への備え
- 佐間水門の開門

調節池



下忍調節池



埼玉県の取組

浸水対策重点地域緊急事業

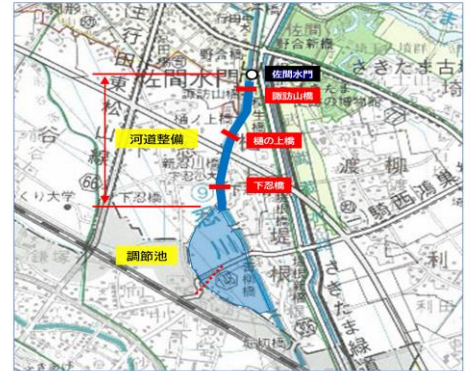
令和3年度～令和8年度

【河道整備】

延長 L=1,300m

【調節池】

面積 約24ha
調節容量 約43万m³
(25mプール670杯分)



調節池



今後のスケジュール(予定)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
測量・設計		設計				
用地測量		用地測量				
用地買収			用地買収			
調節池				調節池工事		
下忍橋				下忍橋		
樋の上橋					樋の上橋	
諏訪山橋						諏訪山橋
河道工事						河道工事

※ スケジュールは変更になることがあります

水資源機構の取組 (つづき)

確実な内水排除操作に向けた対応

■ 武蔵水路内水排除情報伝達訓練

- 5月11日に令和元年台風19号時の様に荒川大規模出水に伴い、武蔵水路の内水排除が中止となる場合を想定した訓練を関係機関のトップの参加により実施。(昨年度に続き2回目)
- 大規模出水において、内水排除中止操作に伴う情報伝達や各機関の状況等について、Zoomを活用し共有を実施。
- 各機関より内水排除中止操作に伴う一連の流れが確認できた等のご意見を頂いた。



【訓練の概要】

日時：令和5年5月11日(木)

- 参加機関 ※カッコ内は参加者
 - 荒川上流河川事務所 (事務所長)
 - 埼玉県北本県土整備事務所 (所長)
 - 埼玉県行田県土整備事務所 (所長)
 - 行田市 (市長)
 - 鴻巣市 (市長)
 - 利根導水総合事業所

- 訓練内容
 - 令和元年台風19号波形を基に、内水排除中止操作に関する一連の流れを実際の動きを踏まえ実施
 - Zoomによるホットラインによる共有、メールにて情報伝達を実施
 - 機構、国交省のライブカメラ映像等の共有により状況把握を実施

より確実な内水排除を実施するために

■ 武蔵水路内水排除連絡会議

- 4月20日に行田市、鴻巣市、行田・北本県土整備事務所、関係土地改良区及び国交省等で構成する「武蔵水路内水排除連絡会議」を開催
- 内水排除の説明(動画)、昨年度実績報告や連絡体制の再確認を行うとともに、内水排除に関わる課題等について意見交換を実施
- 会議終了後には、操作室の見学会も合わせて実施し、利根大堰や武蔵水路の管理等について説明を実施

